

兼松株式会社

我が社の穀物飼料 担当者のご紹介

◆ 芳賀 聡 (はが さとる)

穀物飼料部副原料課

2008年入社、18年目となりました。入社後9年間魚粉魚油を担当、10年目が見えてきたころ、このままでは魚粉オジサンになってしまうと、当時の上司に直訴し、大豆粕担当となりました。その後は中国・上海駐在、横滑りでベトナム・ホーチミン駐在を経て、今年度から古巣の穀物飼料部・副原料課に戻りました。駐在期間を除くと「粕」一筋といたところですよ。



上海では駐在期間中にコロナ禍となり、空港から自宅までパトカー先導（監視？）されたり、地下鉄の入口の検温で体温が高いと連行されかけたりと様々な恐怖体験がありましたが、ここで全てをお伝えする尺がないのが残念です。

当時は省や直轄市をまたいだ不要不急の外出に制限があり、帯同していた家族は3年弱の上海生活で一度も上海市を出ることはありませんでした（遊びに行くところがなさすぎて、待ち時間ゼロの上海ディズニーには4回行きました！）。

ホーチミン異動時は、渡航後2週間で家族全員が順番にコロナ罹患、1カ月半自宅から出られず、運動不足解消のため毎日ビリーズブートキャンプに励んでおりました。with コロナ浸透後は移動制限も解除され、車で片道5時間のメコンデルタ出張もどこか心地よく、自由に自分の意思で移動できることは本当にありがたいことだとつくづく感じました。窮屈な生活を強いていた家族ともベトナム国内の観光地や周辺国を旅行することができ、辛いだけの帯同生活ではなく、楽しい思い出も作ってあげられました（と、私は信じています）。

私の紹介というより、コロナ禍海外生活大変だった話になってしまいました。が、「粕」を中心に本邦の飼料業界にお役立ちできるよう努力して参りますので、今後ともよろしく願いいたします。

◆ 大津留 隆世（おおつる りゅうせい）

穀物飼料部穀物課

皆様、はじめまして。兼松株式会社の大津留隆世（おおつる りゅうせい）と申します。2024年に新卒入社、穀物飼料部穀物課に配属となり、現在トウモロコシの受渡を担当しております。少し自己紹介をさせていただきます。

出身は福岡市で、大学進学タイミングで上京しました。福岡市出身と聞くと都会なイメージを持たれる方が多いかと思いますが（勝手な妄想かもしれませんが）、家の目の前には池と山がある田舎に住んでおり、高校時代は川沿いを自転車で爆走、水辺に多数生息している目に見えない小さな虫を顔にバシバシと当てながら通学しておりました。小中高と野球をしており、特に中学時代は「福岡の田舎の中学校の野球部」と聞いて皆様が思い浮かべる光景の通りの環境で先輩方に鍛えられ、多少のことではめげない精神力を身に着けることができました。



私は人と関わるのが好きで、人に心を開くのがかなり早い方だと思っております。そのような背景から、人と人との繋がりがビジネスを生む商社業界に興味を持ち、入社しました。

入社から1年半が経ちますが、配属直後にトウモロコシを積んだ本船の荷役に立ち会った際、本船の大きさと圧倒的なトウモロコシの物量を目の当たりにし、飼料業界のスケールの大きさに感動したことを覚えています。やはりオフィスではなく現場に行かせていただくことで学ぶことは

多く、特に弊課メインの荷下ろし先である鹿島港に関しては、「鹿島に一番来る商社」を目指して、日々業務に取り組んでおります。

未熟者ではありますが、業界に関わらせていただいている皆様への感謝を忘れず日々精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願いいたします。

◆片山 真登（かたやま まさと）

穀物飼料部粗飼料課

皆様、はじめまして。兼松株式会社の片山と申します。昨年2024年10月に転職し、穀物飼料部粗飼料課に所属いたしました。直接ご挨拶ができていない皆様には、この場をお借りしてご挨拶申し上げます。

経歴としましては、獣医大学を卒業後、単身でオーストラリアに渡り、同国最大のフィードロットに管理獣医師として就職いたしました。そこでは、5万

5千頭の牛を肥育しており、新卒の獣医師としてはあり得ない数の症例に携わることができました。当時は、異国の地で一人、終わりのない診察と治療に明け暮れる日々には挫けそうになることもありましたが、今思うと、この経験は何物にも代えがたい、非常に充実した日々であったと感じております。



その後、他商社にて生体家畜や粗飼料の輸入業務を経験したのち、米国に駐在し、飼料添加物の営業にも従事しておりました。畜産の川上側を広く経験させていただいており、新卒から畜産畑一筋で、社会人13年目となります。

出身は九州の宮崎県で、田舎者ですので高校生まで山や川で遊んでおりました。その影響もあって、趣味は昆虫採集と天体観測です。先日も、虫友と共にインドネシアの山奥まで昆虫観察に行つて参りました。あらゆる生き物と自然が大好きで、どんな場所でも楽しむことができる趣味だと思っております。現在は二人の息子たちに昆虫採集の英才教育を施しており、いつか家族で海外の昆虫採集旅行に行くことが夢です。

以上、簡単ではございますが、自己紹介とさせていただきます。まだまだ若輩者ではございますが、本邦畜産・飼料業界の未来を思う気持ちは誰にも負けないつもりです。オーストラリアの大地で培ったタフなメンタルと、これまでの知見を活かし、少しでも業界に貢献できるよう精進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願ひいたします。